



# 多様化する決済手段 ; 現金取引から決済サービスへ

平成28年8月  
経済解析室



# はじめに

最近では、フィンテック、ビットコイン、ブロックチェーンといった言葉を新聞や雑誌などで見たり聞いたりするようになりました。

これらの言葉は、情報通信技術を活用した「決済」の技術革新に関連しています。

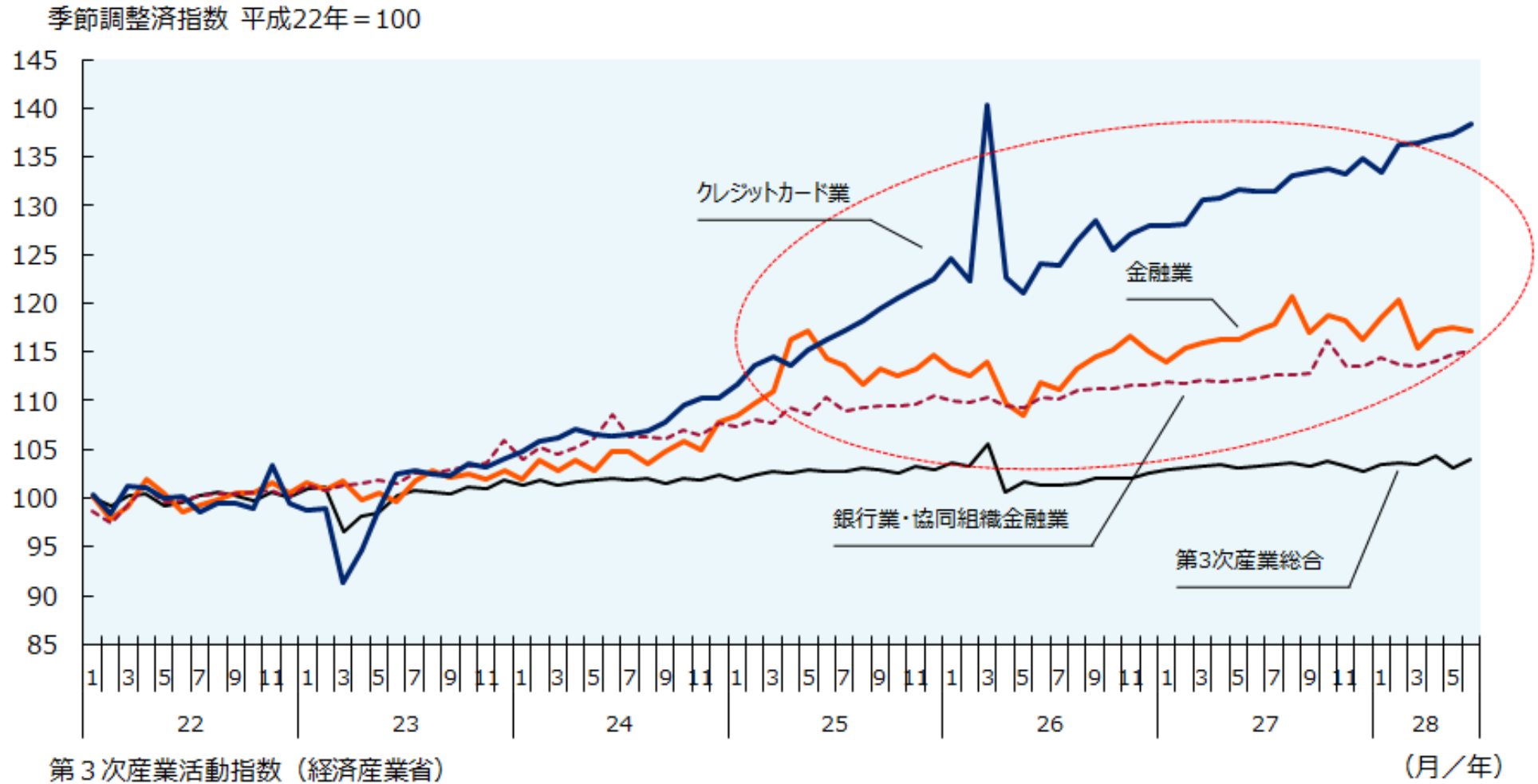
「決済」とは、経済活動を支えるインフラ的サービスビジネスです。

そこで、第3次産業活動指数（サービス産業活動指数）や関連統計を用いて、特に、個人決済手段の多様化として、クレジットカードとICカード（電子マネー）のデータを概観してみたいと思います。

# クレジットカード

# 金融ビジネスに関連する指数の動き

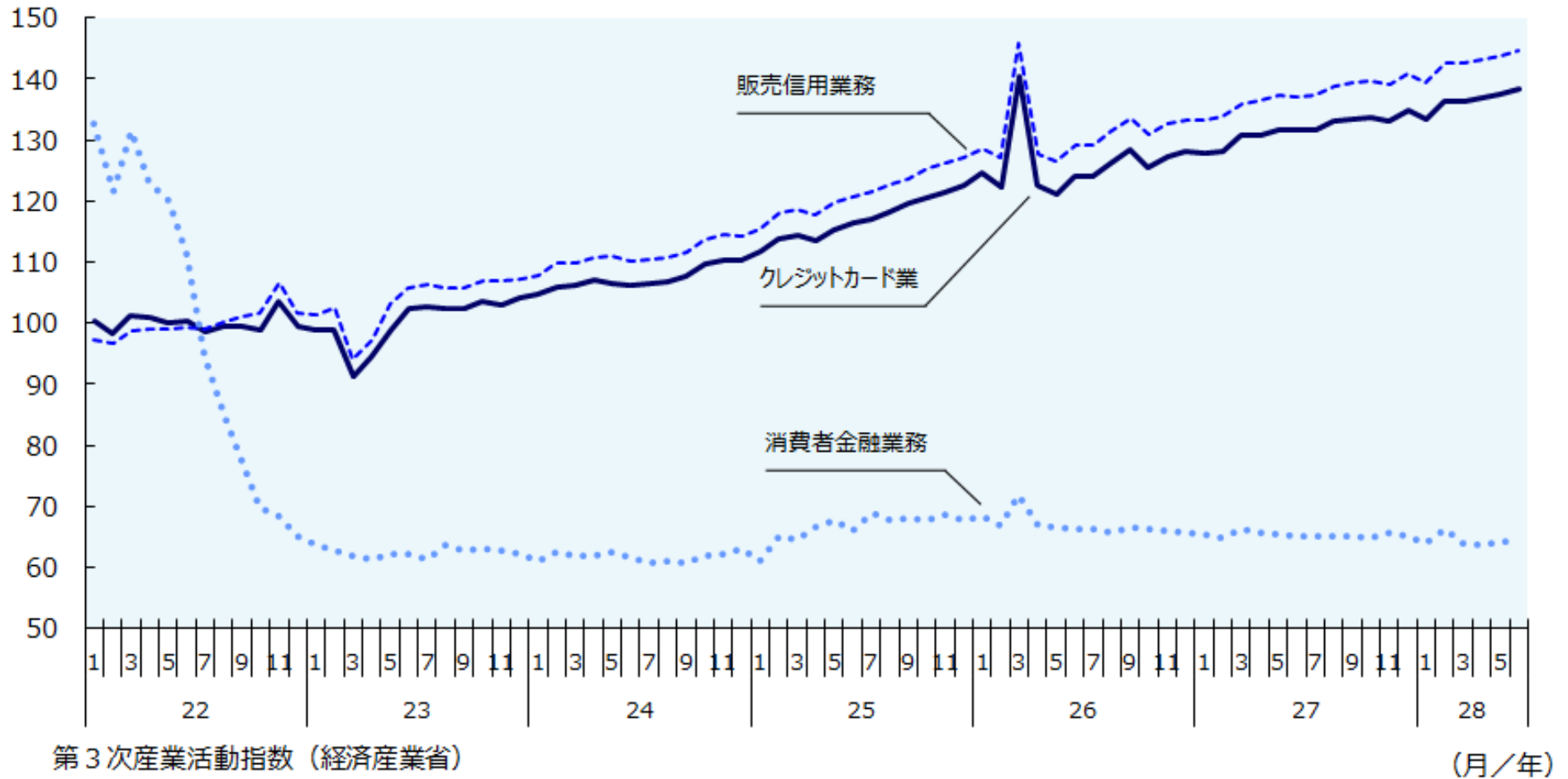
近年、第3次産業活動指数の内訳である金融業の指数の動きは、サービス全体に比べて顕著に上昇している。



# 個人の決済 ～クレジットカード業の動き～

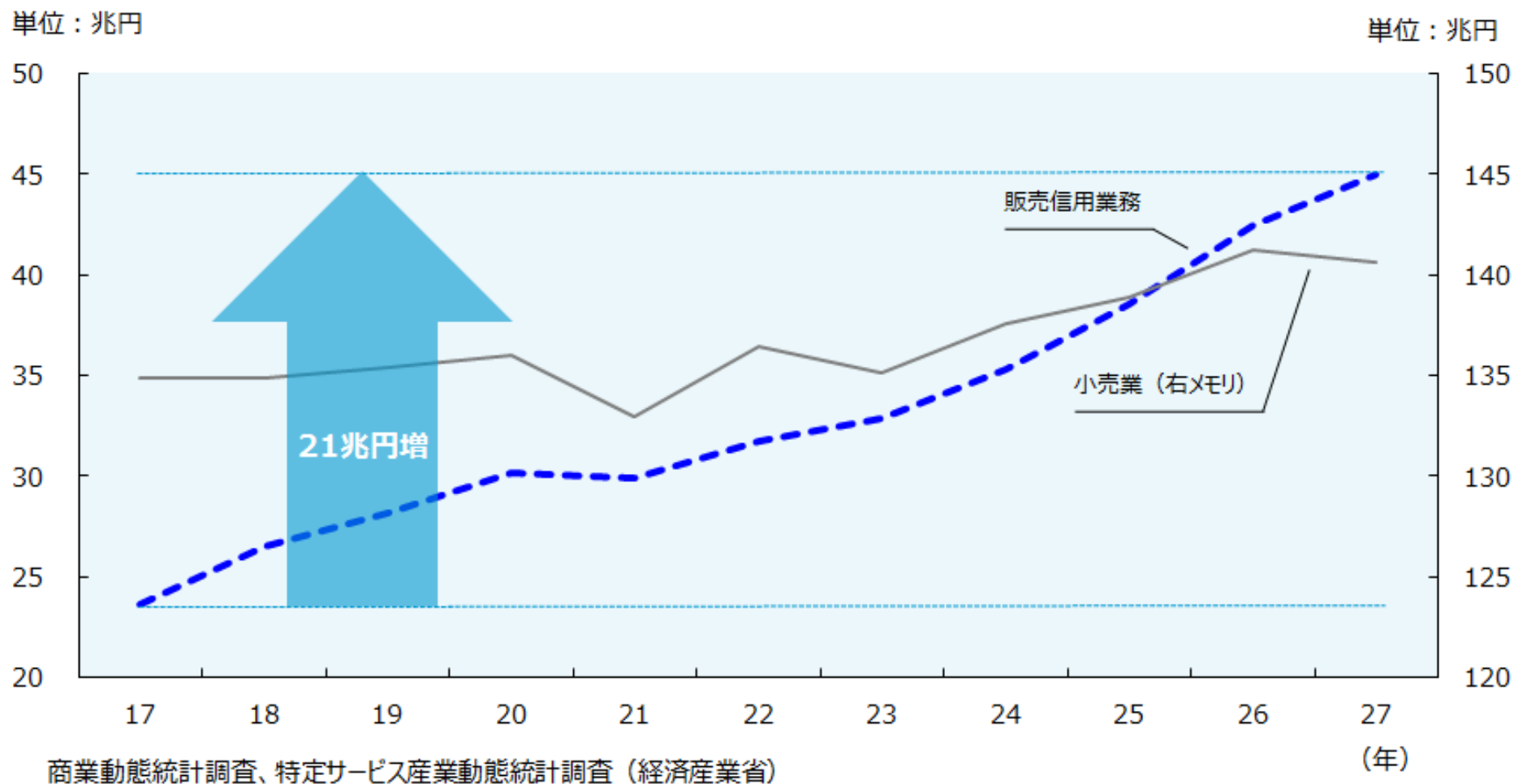
個人が現金以外で取り得る決済手段として、すぐに思いつくのが「クレジットカード」。  
クレジットカード取引でも、消費者金融業務は低迷し、販売信用業務が上昇傾向で推移。

季節調整済指数 平成22年 = 100



# クレジットカードの浸透 ～小売との比較～

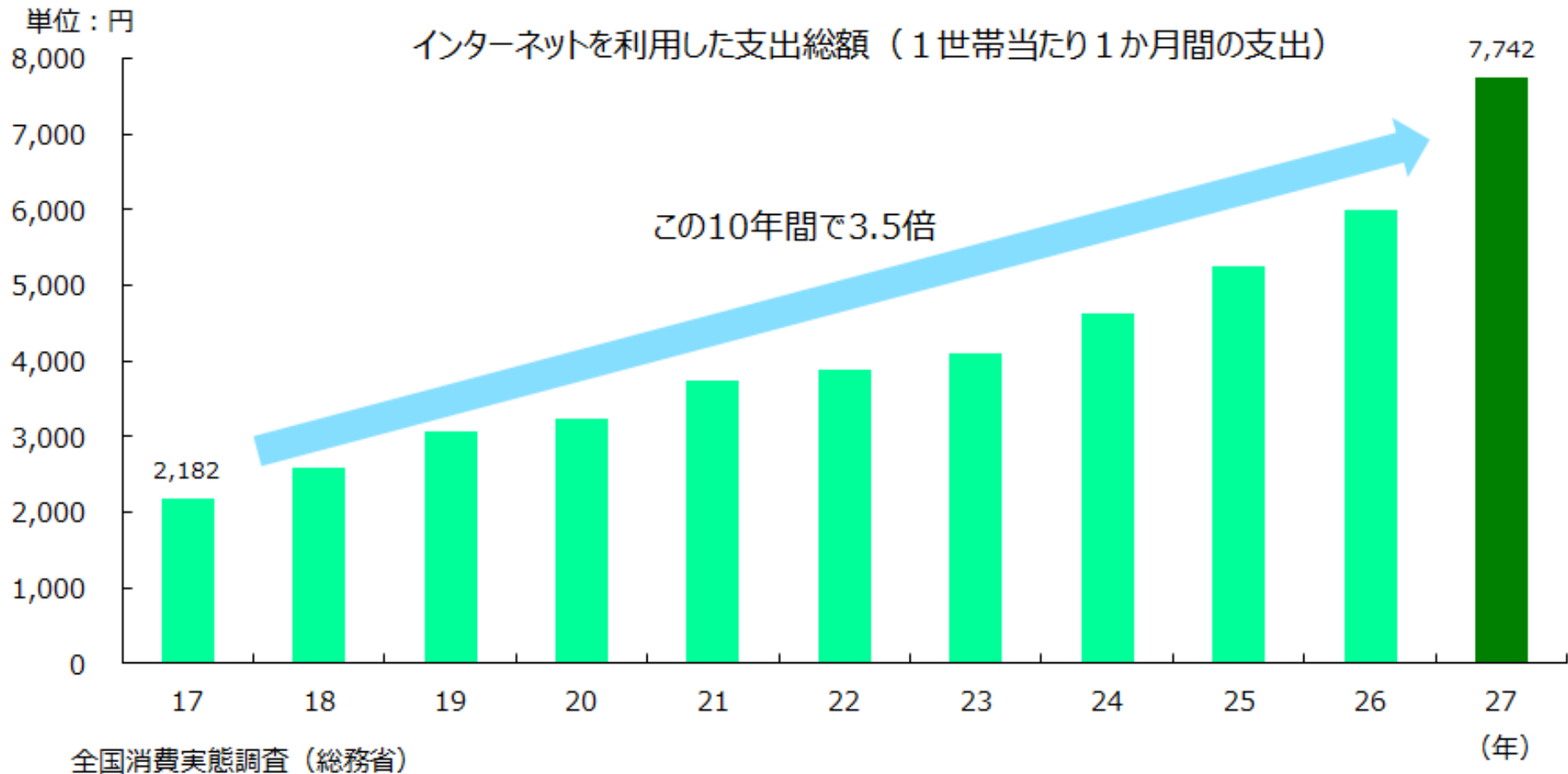
この10年で、小売業販売額の増加6兆円に対し、販売信用業務は21兆円の増加、増加率にして90%増と、ほぼ倍増している。



# インターネットを利用した出費の増加

クレジットカード利用が伸びている背景に、インターネットを利用したネットショッピングの普及がある。

この10年で1世帯当たりの1か月間のインターネットを利用した支出は、実に3.5倍。

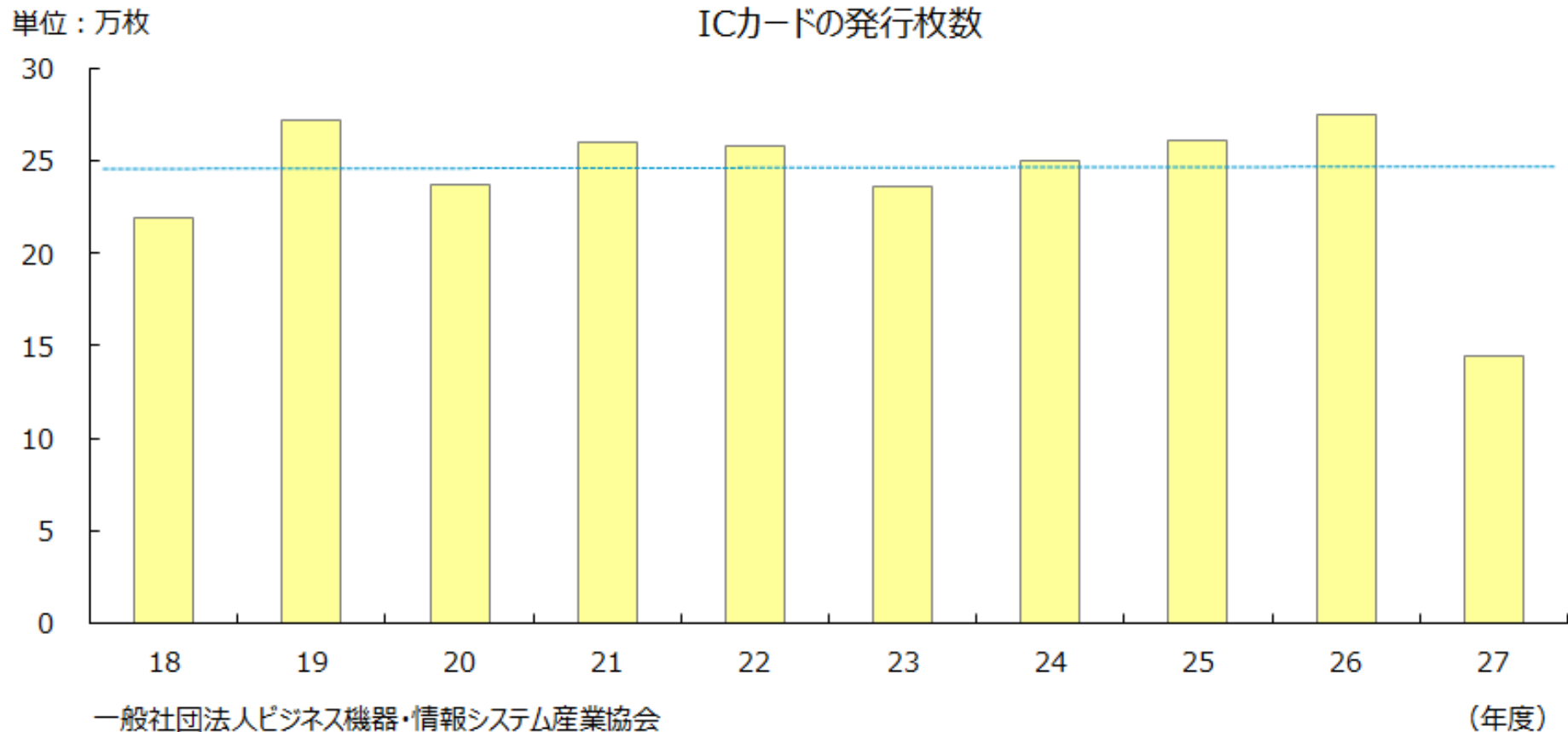


# ICカード（電子マネー）



# 個人決済のもう一つの手段：I Cカード（電子マネー）

個人の決済手段として、普及が進んでいるのが、I Cカード（電子マネー）。  
I Cカードのここ数年の発行枚数を見ると、ほぼ25万枚の一定水準での推移へ。

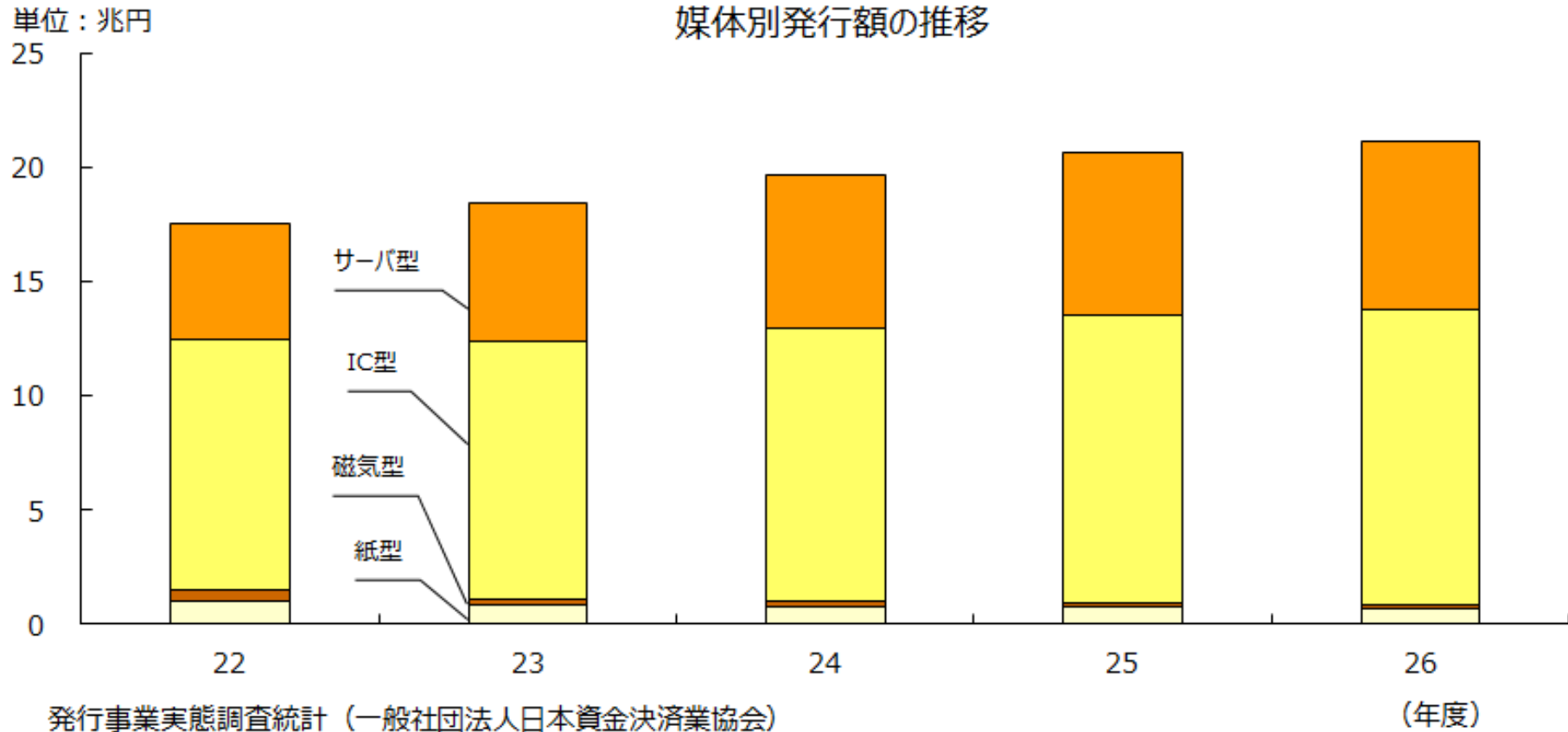


注1：18年は年計、他は年度計

注2：27年度は上半期計

# 発行金額は年々増加：電子マネーは、I Cカードからサーバー方式も

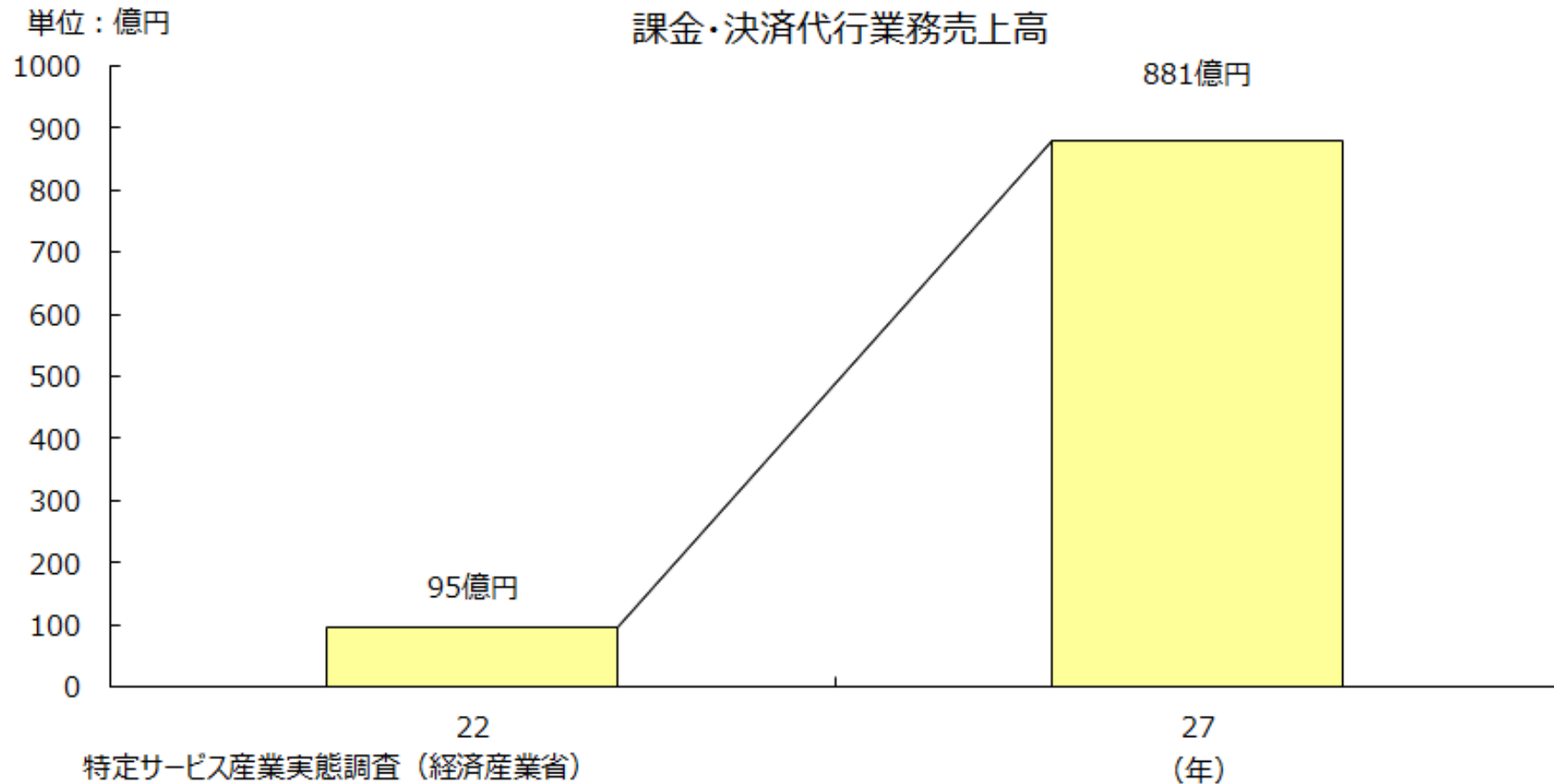
I Cカードに限らない前払式の発行額は年々増加し、平成26年度は21兆円規模に。家庭用ゲーム機にカードリーダーが搭載されるなど、I Cカード型の電子マネーの利便性も向上しているが、情報のやりとりで決済を完結させるサーバ型も増えている。



# 情報処理分野でも、課金・決済代行業務は成長中

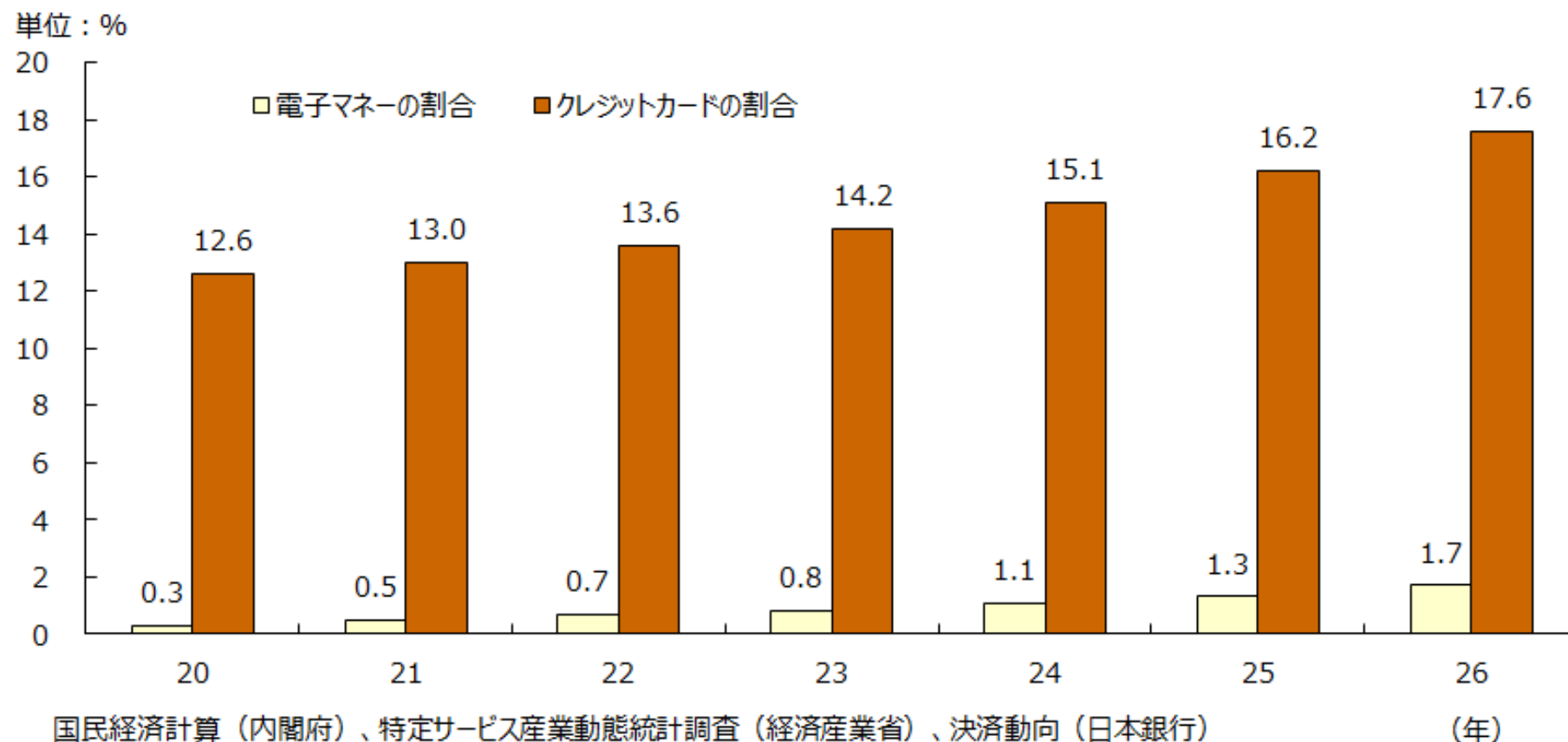
決済サービスは、電子マネーによって、情報ビジネス化。

インターネット付随サービスにおいても、課金・決済代行業務による売上高は過去5年でも大きく伸びている。



## 名目個人消費額と、決済サービス取扱高の比較

個人消費、そしてそれに対するクレジットカード、電子マネーのそれぞれの割合をみると、個人消費が増減する中で、クレジットカードの取扱高が一定程度の割合があり、少しずつだが増えている。また、電子マネーの決済額は、まだ全体に占める割合は小さいものの、近年伸びている。



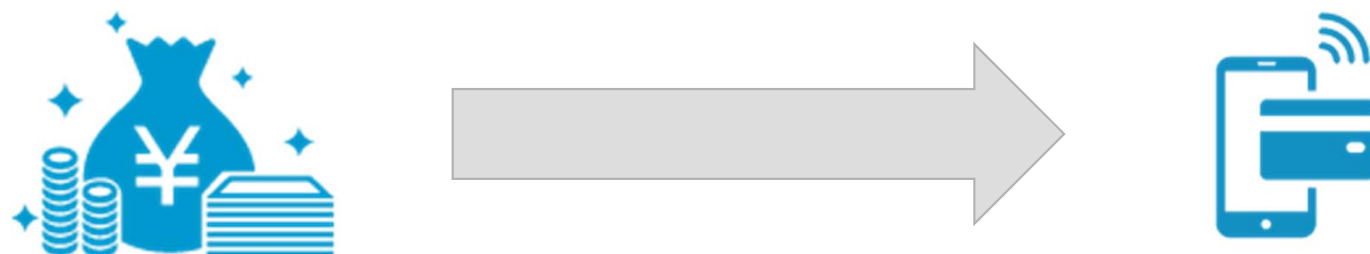
# まとめ 現金のやり取りから情報のやり取りへ ～変わる決済の姿～

クレジットカードやICカード（電子マネー）といった、現金に代わる個人決済手段による決済の比率（対名目家計消費額）は、まだそれ程高くはありません。とはいえ、着実に伸びていることも確かです。

こういった新しい決済は、お金のやり取りというよりは、価値（債権）情報のやり取りで成り立っており、情報技術と親和性が高く、そのイノベーションとともに、その姿も変わっていくのかと思います。

かつて、給料日やボーナス日にはお札の入った給料袋が支給されたものでした。それが銀行口座への振り込みへと変わり、給料日やボーナス日には銀行ATMに列ができるようになりました。

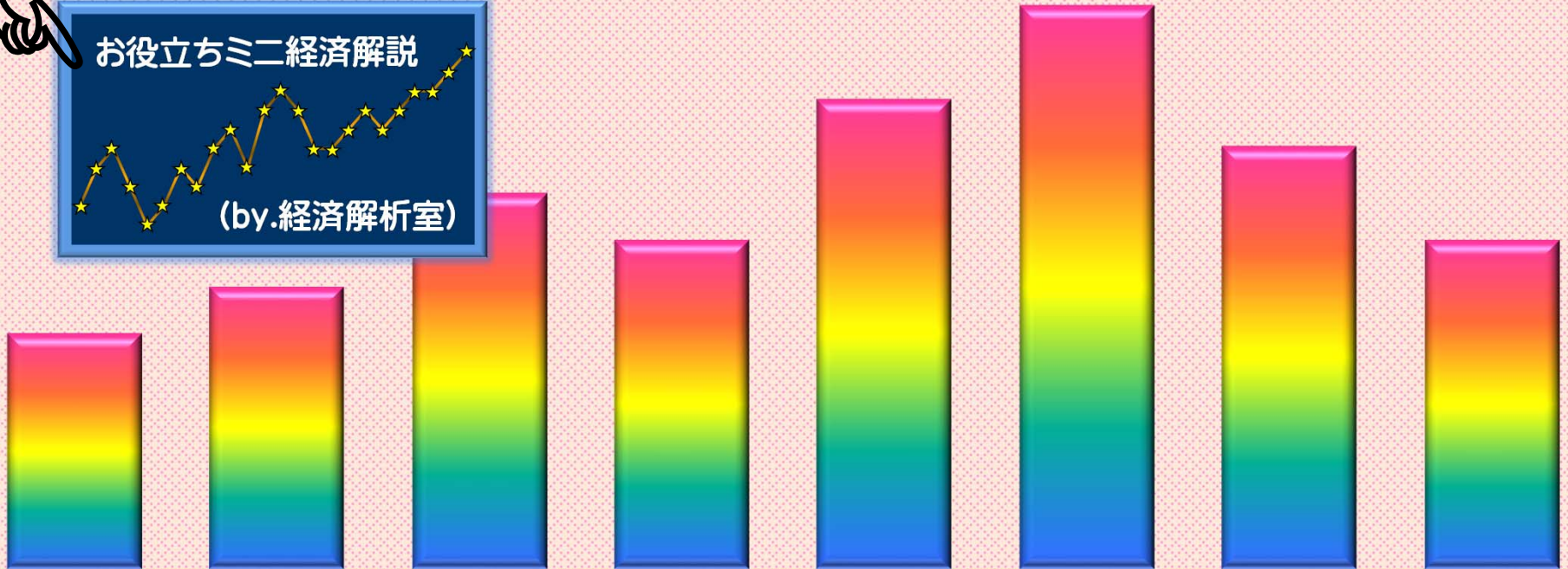
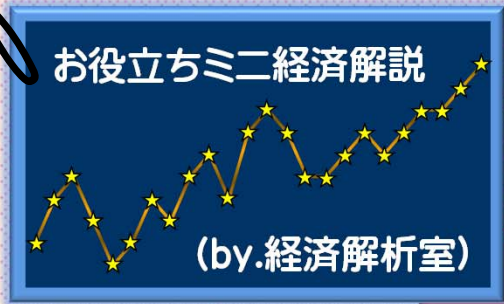
それでもはやATMで現金を手にもすることもなく、情報のやり取りのみで決済が全て完了していく、そんな姿が、そう遠くない未来に日常になっていくのかもしれない。





# こちら是非御覧下さい！

- ◎ 三二経済分析：色々なテーマあります
- ◎ お役立ち三二経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ち三二経済解説、三二経済分析、動きで見る経済指標、三二経済解説など